

矢田津世子 **小説家。昭和10年代をそのまま代表するように生き、早世した。**
やだつせこ
韓国反日暴動1907 = 秋田県南秋田郡五城目町で、町助役矢田鉄三郎の四女に生まれる。母はチエ。本名ツセ。

明治天皇没・1912 = 5歳：

第一次大戦始1914 = 7歳：五城目尋常小学校に入学。
21ヶ条要求・1915 = 8歳：父が助役を辞めて、一家で秋田市に移り、
民本主義・・・1916 = **9歳**：家族とともに、上京。

原敬首相暗殺1921 = 14歳：

関東大震災・1923 = 16歳：この年、兄不二郎が東京帝大に入学。
護憲三派圧勝1924 = 17歳：麹町高等女学校を優等で卒業。
治安維持法・1925 = **18歳**：日本興業銀行に就職、
この間に、兄弟4人と父を失う。
金融恐慌・・・1927 = 20歳：退職。兄不二郎の転勤に伴い、母とともに名古屋に転居し、

世界恐慌・・・1929 = 22歳：_ {女人芸術}名古屋支部員となり長谷川時雨らと交流，作家の道に入る。 {新愛知} {名古屋新聞}などに「たつ江の見たもの」「街に動く女」など，「女人芸術」に「反逆」などを発表，左翼作家として注目され，
海軍軍縮条約1930 = 23歳：*「**罌を跳び越える女**」が {文学時代} の懸賞小説に当選，文壇にデビューした。このころ生涯親交を結んだ作家**大谷藤子**と出会う。

満州事変・・・1931 = 24歳：単身，上京。
五一五事件・1932 = 25歳：兄の東京転勤に伴い，母と3人で暮らす。_ **坂口安吾**と出会う。
国際連盟脱退1933 = 26歳：_ **共産党へ資金カンパして特高に検挙され，以後体調崩す。内面的転機を経験。モダン派から純文学へ転身すべく，坂口・田村泰次郎らの同人誌 {桜} に参加，安吾との関係が始まる。 {日曆} {人民文庫} に参加。**

帝人疑獄事件1934 = **27歳**：_ **武田麟太郎に師事。**
二二六事件・1936 = 29歳：* **「安吾との関係を断つ。 {人民文庫} に発表した「神楽坂」が芥川賞候補となり，第1回人民文庫賞を受賞。**

日中戦争始・1937 = 30歳：短編集「仮面」，
健保+総動員 1938 = 31歳：_ **「秋扇」が松竹で映画化され「母と子」と題して封切り。**
第二次大戦始1939 = 32歳：短編集「花蔭」，
大政翼賛会・1940 = 33歳：長編小説「家庭教師」「巢燕」，_ **「家庭教師」も松竹が映画化。**
日米開戦・・・1941 = 34歳：短編集「女心拾遺」。_ **最高傑作とされる「茶粥の記」，**
・・・・・・1942 = 35歳：短編集「鴻ノ巣女房」などを出版。* **川端康成から寄稿を求められて執筆するも掲載されず，ショックを受け，それまでの無理な執筆もたたって病臥，**

創価学会検挙1943 = **36歳**：
年金+総武装 1944 = 37歳：_ **結核のため，没した。**
安吾の「二十七歳」「三十歳」は津世子との出会いと訣別を描いた小説。